

強者の国語・〔古文・問題編〕

東京大学の過去問（二〇〇二年）です。東大としてはかなり易しい文章ですが、「東大でどのような解答が要求されているか」を実感するのに良い教材です。本番では解答に文字数の指定はありませんが、今回は全て20〜40字とし、30分を目安に解いてみてください。

次の文章は、千人の後をもつ大王が、一人の後（菩薩女御）に愛情を傾け、その后が懐妊したという話に続く場面である。これを読んで、後の設問に答えよ。

九百九十九人の后たち、第一より第七に当たる宮に集まり、いかがせんとぞ歎なげき合はせられける。ただ注しこの王子の果報のほどを知らんとて、ある相人まうじんを召して、この王子のことを問はれけり。「菩薩女御の孕はらみたまへるは、王子か姫宮か。また果報のほどを相し申せ。不審におぼゆる」とありければ、相人、文書を開き申しけるは、「孕みたまへる御子は王子にておはしますが、御命は八千五百歳なり。国土安穩にして、この時、万民みな自在けらくの王者にあるべし」とぞ占ひ申しける。后たち相人に仰せられけるは、「この王子の御事をば、大王の御前にて我らが言ふままに相し申せ。禄は望みにしたがふべし。この王子は、生じたまひては七箇日といはば、九足八面の鬼となりて、身より火を出いだし、都をはじめとして、一天をみな焼失すべし。この鬼は三色にして、身長は六十丈に倍すべし。大王食はれたまふべし。また言はく、「鬼波国きばこくより九十九億の鬼王来りて、大風起こし、大水出だして、一天をばみな海と成すべしと申せ」とて、おのおのの分々にしたがひて、禄を相人に賜ふ。あるいは金五百両、あるいは千両なり。しかのみならず、綾錦あやにしきの類は莫大なり。相人は喜びて、「承りぬ」とて答へ申しける。后たちは、「あなかしこ、あなかしこ」とぞ口秘くひしめしたまひける。相人、「いかでか違へたてまつるべき」と申し立

強者の戦略

つ。

中一日ありて、后たち、大王の御前に参りて、申し合はせられけるは、「後の御懐妊のこと、王子とも姫宮ともいぶかし。早く承らん。相人を召して聞こしめすべし。余りにおぼゆるものかな」。時にしかるべしとおぼしめして、件くだんの相人を召す。后たち、仰せられける菩薩女御の御産のことを、何の子ぞと申せと言ひながら、約束を違へんずらんと、おのおのの心内はひとへに鬼のごとし。相人は注雑書を開きて目録を見たてまつるに、王子の御果報めでたきこと申すに及ばず、この後の御年齢はいかばかりと申すに、三百六十歳とおぼえたり。やがて相人は目録にまかせて見れば、涙もさらに留まらず。これほどめでたくおはします君を、あらぬ様に申さんことの心憂さよとは思へども、前の約束のごとく占ひ申しけり。大王はこのことを聞こしめし、「親となり、子となること、かたまたまもありがたし」。（注）この世一つならぬこと。今日までに子といふ者いまだ見ず。いかなる鬼とも生まれ来らば来れ。親と子と知られ、一日も見て後にともかくもならんことは苦しからじ」とて、御用ゐもなかりけり。

(『神道集』)

〔注〕(1) この王子——これから生まれてくる子のこと。

(2) 雑書——運勢・吉凶などを記した書。

(3) この世一つならぬこと——この世だけではない、深い因縁があることなのだ。

設問

- (一) 傍線部ア・イを現代語訳せよ。
- (二) 傍線部ウ「相人を召して聞こしめすべし」について、何を「聞こしめす」というのか、内容がわかるように現代語訳せよ。
- (三) 傍線部エ「約束」の内容を簡潔に記せ。
- (四) 傍線部オ・カ・キを現代語訳せよ。